

# 法政大学学術機関リポジトリ

## HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

なし

---

(発行年 / Year)

1910

第七百八條

ヨリスル 治事用語ヲ刪除セリ

モノヲ説明ス、雖之之共必要ナキノミナラス、犯罪及ヒ准犯非ナル用語ハ民法上頗ル其當ヲ得サルモノニシテ近世ニ至リ學說上ニ於テモ概々有意又ハ無意ノ區別ヲ爲スニ止マルノミナレハ本來ハ固

其他既成法典、羅馬法以來普通ニ慣用セラレタル如罪及ヒ准犯非ナル用語ニ依リテ不正ノ損害ナル

ヲ法律保護ノ範圍外ニ在ルモノ少カラス、又不正ノ損害ナル表題ニ諸ノ立法例ニ於テ殆ント其例ヲ見サル所アレハ本來ハ本編第一章以下ノ例ニ徴ヒ義務ノ原因タル事實ニ依リテ本章ノ表題ヲ定メ之ヲ不法行為改メタリ蓋シ本章ノ表題ニ付キテハ諸國ノ立法例原區區ニシテ或ハ之ヲ損害賠償ノ一部ト、或ハ法律、規定、因ル義務ノ中ニ包含セシメ或ハ許モレサル行為ト稱シテ獨立ノ一章ト爲スト雖ニ要スレハ本章ニ規定スル所ノ權利侵害ノ行爲ハ故意又ハ過失ニ因ル不法ノモノナレハ本來ハ固

第五章 不法行為

(理由) 本章ハ既成法典財產編第二部第一部第一章第三節ニ相當ノ義務、特別原因タル不法行為ニ關スル規定、掲タルモノトス而シテ既成法典ハ財產編第二部第一部第一章、題テ義務ノ原因ト稱スルニ拘ハラズ、

同章第二節ニ於テヘ義務ノ原因タル事實ノ結果ヲ取リテ之ノ不正ノ損害ト題スルハ頗ル其當ヲ失スルノミナラス不正ノ損害ナル用語ハ廣ク德義上ノ意義ヲ包含シ、過失不正ノ損害ト稱スヘキモノニシテ法律保護ノ範圍外ニ在ルモノ少カラス又不正ノ損害ナル表題ニ諸ノ立法例ニ於テ殆ント其例ヲ見サル所アレハ本來ハ本編第一章以下ノ例ニ徴ヒ義務ノ原因タル事實ニ依リテ本章ノ表題ヲ定メ之ヲ不法行為改メタリ蓋シ本章ノ表題ニ付キテハ諸國ノ立法例原區區ニシテ或ハ之ヲ損害賠償ノ一部ト、或ハ法律、規定、因ル義務ノ中ニ包含セシメ或ハ許モレサル行為ト稱シテ獨立ノ一章ト爲スト雖ニ要スレハ本章ニ規定スル所ノ權利侵害ノ行爲ハ故意又ハ過失ニ因ル不法ノモノナレハ本來ハ固

(理由) 本條へ不法行爲ニ本ツク損害賠償ノ責任ニ關スル原則定ムモノニシテ既成法典財產編第三百七十九條第一項ニ相當シ同條第一項及ニ第三項ハ本案ニ認ムヤル犯罪及ニ准犯罪アルモノノ意義及ヒ其責任ニ關スル説明ニ過キサレハ共ニ之ヲ削除セリ左ニ既成法典同條第一項ニ對スル修正ノ大要ヲ示サシ

一、本條へ於ク権利侵害ノ行爲ハ故意又ハ過失ニ因ルトシ既成法典ハ之ヲ過失又ハ懈怠ニ因ルト爲ス

スハ單ニ文學上、修正ニ止マリ其應旨ニ於テ異ナル所ナニシテ諸國ノ立法例ニ微殊ニ不法行爲

ニ本ツク損害賠償ノ責任ヲ定ムルニ付キ二個ノ立法主義ヲ別々ムコトヲ得ハ即チ過失主義ト

固稱スヘキモニシテ損害ノ原因タル行爲ヲ爲シタル者ニ故意又ハ過失アルコトヲ要ストレーハ

即チ原因主義トモ稱スヘキモノニシテ行爲ト損害トノ間ニ原因結果ノ關係スル限ハ其行爲ヲ爲シ

タル者カ尤分ニ付シテ如ヘタルニ拘ハラス損害ノ責任ヲ負セサルニカラスト爲スモノトス而シ

テ原因主義ニ屬ス失シテ各人活動ノ妨害ヲ爲シ實際ノ生活ニ遭ヒキルコトハ多數ノ立法例ニ於テ

確認スル所ニシテ學說レシ亞正當アルベシト雖モ立法上ニ於テヘ固リ採用スヨコトヲ得サル理

論タルニ遇キタルニ因ルニ木案ハ既成法典ノ如ク過失主義ニ從フモニニシテ故意又ハ過失ノ存セサ

ル限リハ損害責任ヲ生セサルモノトス蓋シ不法行爲ニ關スル規定ハニ依リテ既成法典ニ於テ

二、故意又ハ過失ニ本ツク行爲ハ之ニ因リテ他人ノ権利ヲ侵害レタルニ非サレハ損害賠償ノ責任ヲ

生セサルモノトス蓋シ不法行爲ニ關スル規定ハニ依リテ既成法典ニ於テ既存ヒル他人ノ権利ヲ保護ヘルモ

ノナレハ或事業上他人ト競争シテ此者ニ損失ヲ被ムラムメタル場合ノ如キ未タ権利ヲ侵害レタル  
ニ非サルハ賠償ノ責任ヲ生スルコトナシ故ニ多數ノ立法例ニ依レハ権利侵害ナルコトヲ以テ特ニ  
不法行爲ノ原則中ニ明示セシト雖モ其歸スル所ハ權利ト認ヘキモノヲ侵害シタルトキニ限り賠

償、責任ヲ生セシムルモノニシテ既成法典モ亦單ニ損害ヲ加ヘタル事實ノヨリ明示レ其原因タル事實ヲ明示セサルハ後ニ至リテ疑ツ生セシムル處ナシセヒキルニ因リ木案ハ特ニ権利侵害ノ數字ヲ

ヲ加ヘ損害ノ原因タル事實ヲ明確ナリシメタリ而レシテ此ニ所謂權利トハ固ヨリ財產上ノ権利ニ限  
ラザルコトハ本編ノ立法主義ニ照ラシ殊ニ次條ノ明文ニ依リテ疑フ容レサル所トス

三、既成法典ニ不法行爲ニ因ル損害ヲ以テ財產上ノ損害ニ限タルコトハ債權ノ目的ヲ以テ財產上  
ノ價値ヲ有スルモノニ限リタル立法主義ニ依リ殊ニ起草者 説明ニ依リテ明白ナリト誰モ本案ハ  
既成法典ニ反對ノ立場主義ヲ採用シタルノヨナラス權利ト侵害、固ヨリ財產權ニ付テノヨリ存スルニ  
限ラサルモノナレハ本案ハ不法行爲ニ因ル損害ノ範圍財產權上ノ損害ニ限ラス苟モ損害ヲ證明ズ  
ルコトヲ得ハ其財產上ノモノタルト否ヲハニ過當ノ方法ニ依リテ總ハ其賠償ヲ求ムルコトヲ

得セシムルセノトス之ヲ即チ今日進歩シタル社會ノ需要ニ應ヒル至當ノ立法主義ニテ本案ハ次條  
ニ於テ更ニ其趣旨ヲ明白セリ

## 第七百九條

(理由) 不法行爲ノ原則タル本案第七百八條ノ規定ハ既成法典ニ於テ該項ヲ財產權ニ限

ラサルト同時ニ賠償ヲ請求コトヲ得ヘキ損害ノ範囲ヲ財産以外ノ損害及ボスモノナリト雖モ單ニ此原則ヲ掲グニ止マルトキハ其適用上ニ於テ種々ノ疑ツ生セシムル處ナシトセシ即ち身體自由又ハ名譽ニ加ル侵害如キハ從來多クハ之ヲ民法上ノ不法行為中ニ加ヘリシモノニレテ既成法典ノ如キハ固ヨリ此等の侵害ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ認サルノミナラス右ノ侵害ハ當然權利ノ侵害ト稱スルコトヲ得ルカニ付テハ學說上ニ於テモ異論少ラサルニ固リ近世ノ立法例ニ依レハ不法行為ニ關スル原則外ニ特ニ身體自由又ハ名譽ノ侵害ニヨリテ損害賠償ノ責任ヲ生スル旨規定レハ獨乙民法第 草案 如ク此等ノ侵害モ亦權利ノ侵害タルヨリ明示スル例ヲ生セリ之レ即チ本案モ本條前段ニ規定ニ依リテ身體自由又ハ名譽ニ對スル侵害モ亦財產權ニ對スル侵害ト同シク權利ノ侵害タルコトヲ明示シ且此後事ニ依リテ生セタル損害ハ財產上ノモニ非スト雖モ總テ之ヲ賠償セシムハ旨ヲ明ニシテ前條ノ適用上疑ツ生セシムルコト勿ラシム所以ニシテ身體ハ勿論由名譽ノ如キハ社會ニ進歩ト共ニ最も貴重ナル生存要件ヲ爲スモノナハ法律ハ宜シク適當ノ方法ヲ盡シテニシテ保護スルコトヲ務メサルヘカラサレハナリ

## 第七百十條

(理由) 本條ハ不法行為ノ責任ニ關スル特別ノ場合ヲ規定スルモノニシテ既成法典ニ其例ナシト雖モ實質上極メテ必要ナルヲ以テ多數ノ立法例ヲ參照レテ新ニ之ヲ加ヘタリ蓋レ本條三引ノ所ハ屋敷生

スルコトアルニ拘ハラス被害者ノ父母配偶者又ハ子ハ被害者ノ死亡ニ因リテ財產權ハ勿論明ニ權利

ト稱スヘキモノヲ侵害セラレタルコトヲ能ムスルコト能ハサル場合少シトセス而レテ此等ノ者ニシテ自己ノ權利ヲ害セラレタル事實證明ヘキコトヲ得ヘ固ヨリ第七百八條ノ原則ニ依リテ損害賠償ヲ請求スルヨコト得ヘント雖本條ノ場合知キハ被害者ノ父母配偶者又ハ子ハ或ハ其配偶者ル者ヲ失レ或ハ非常ノ悲哀感レ普通ノ權利侵害ニ比シテ遙ニ不法行為ノ害ヲ蒙ルコト大ナル拘ハラス被害者ノ生存ニ付キ別ニ權利ヲ有シタリト云ニコトヲ得サルカ爲メ權利侵害ニ因ル損害ヲ謂明スルコト能ハスレテ終ニ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルノ不幸ニ陷ルヘシ之レ即チ本案ハ特ニ本條ノ規定ニ設ケ被害者ノ父母配偶者及ヒ子ハ假令其財產ヲ害セラレサリ之場合ト雖セ加害者ニ對ス損害賠償ヲ請求シ得ルコトヲ認ムル所以ニシテ羅馬法ニ於テハ斯ノ如キ請求權ヲ認メサリシノ雖モ近世諸國ノ法典ハ多くハ本條ノ如キ規定を設ケ其請求權者ハ或之ヲ未入及ヒ遺子トレ或ハ之父母ヲ加ヘ或ハ曾屬親及ニ再ヒ婚嫁スルマテノ寡婦ト若クハ未成年以下ノ子及モ再ヒ婚嫁スルマテノ寡婦ト爲スモノニシテ本案ハ此等ノ立法例ニ倣ヒ請求權者ノ範囲ヲ適當ニ限定シテ被害者ノ一親等ノ者及ノ其配偶者ト爲セリ

第七百十一條

(理由) 本條以下數條ハ不法行為ノ責任者ニ關スル變更ヲ規定スルモノニシテ本條ハ既成法典財產權第三百七十二條第一項ニ修正ヲ加ヘ未成年者カ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於ケル責任ノ有無ヲ定メタ基蓋未成年人者フシテ不法行為ノ責任ヲ負ハムルヤ否ヤ二付テハ諸國ノ立法例ハ之ヲ二種ニ

大別スルヲ得ヘク一ハ即チ責任ヲ負ハシムルヲ以テ原則トシ未成年ナルヨトハ不法行爲ノ責任三關係ヲ有シスト認ムルモノニシテ他ハ即チ責任ヲ負ハシムルヲ以テ原則トレモ羅馬法以來有能能力ノ關係ノア普通ニ採用セラレタル立法主義ニ從ヒ年齢ノ依リテ責任ノ有無ヲ定メ或ハ未成年者辨識力ヲ標準トシテ之ヲ決スルモノトシテ商事シテ未成法典ニ未成年人者不法行爲ニ付テハ無責任ノ原則トシテ時トレテハ責任アリ宣告セラル、コトヨリト云ニ止マリ果シテ如何ナル場合ニ於テ此責任ヲ認ムルヤニ付キ適當ノ標準ヲ示サズ又羅馬法ヲ繼承タル獨乙諸邦ノ如ク七才又ハ十二才ト云々加キ立法者カ隨意ニ指定シタル年齡ニ依リテ責任有無ヲ定ムル立法例モ亦其當ヲ得タルモノト云フヘカラヌ要スルニ未成年者ト雖モ其行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ宣シク賠償責任セサルヘカラスト雖モ未タ其行爲ノ善惡ヲ辨别スルム知能ヲ具ヘサル未成年者ヲシテ總行爲ニ責任ヲ負ハシムルハ亦固ヨリ立法ノ木旨ニ透シタルモノト云フヘカラス故ニ本案ハ未成年者ノ不法行爲ニ付テハ行爲ノ責任ヲ辨識スルニ足ル知能ヲ具ヘシヤ否ヤヲ以テ賠償ノ責任ヲ定ムル標準トシ既成法典ノ欠點ヲ補フト同時ニ右標準ヲシテ事物實際ニ適セシメタリ

### 第七百二條

(理由)心神喪失者カ不法行爲ノ責任ニ任ヌレテ其監督者、責ニ歸スルハ諸國ノ立法例ニ於テ殆ト一致スル所ニシテ英國ニ於テハ之ニ反對ノ立法主義カ存スル如ク主張スル者少カラスト雖モ斯ノ如キ判決例ハ一モ存セサルカ如シ而シテ既成法典財產編第三百七十一條第三項モ多數ノ立法例ト同一ノ

越旨ニ木ツクモノナリト雖モ心神喪失者カ不法行爲ノ責任ニ任セサル本則ヲ示スニアラス殊ニ既成法典ノ如ク單ニ施觸自癡者ト云フトキハ一方ニ於テハ心神喪失者範圍ヲ狹クレニ一方ニ於テハ此等ノ者本心復シタル場合ヲモ包含セシム如ク聊々廣ニ失スル處アルニ因リ木案ハ心神喪失ノ間ニ他人ニ損害ヲ加ヘル者ハ賠償ノ責任セストレ法律ノ本則ヲ示ストト同時ニ其適用ヲ受クヘキ者ノ範圍ヲ適當ニ限定セリ

然レトモ心神ヲ喪失スルコトハ疾病其他治療上ニ必要等ニ因リ毫モ自己ノ故意又ハ過失ニ因ラサルコトアリ或ハ多量ノ飲酒ニ因リ故意又ハ過失ニテ一時心神ヲ喪失セシムルコトアリ前ノ場合ニ於テハ心神喪失者ヲシ共行爲ニ付キ固ヨリ責任ヲ負ハムル理由ナレト雖モ後ノ場合ニ於テハ假令心神喪失中ハ爲シタル行爲タリモ既ニ故意又ハ過失ハ存スル限ハ決シテ其實ヲ免カレ得ヘキニアラス之即チ第七百八條ノ本則ニ依リテ自ラ明白ナルヘント雖ニ本條ニ於テ心神喪失ノ間ニ便シタル行為ハ責任ヲ生セシメサル本則ヲ掲ケタルニ因リ或シ疑議ノ生セシメントコトヲ慮リ本條但書ノ規定ヲ設ケ自己ノ故意又ハ過失ニテ一時心神ヲ喪失シタル者ハ喪心中ニ爲シタル不法行爲ニ付キ其實ヲ免カルコトヲ得サル旨明ニセリ

### 第七百十三條

(理由)本條ハ既成法典財產編第三百七十一條及ニ第三百七十一條ヲ合シテ之ニ修正ヲ加ヘタリ即チ既成法典第三百七十一條ハ自己ノ不法行爲ニ木ツク損害賠償ノ責任ニ任スルハ勿論他人カ自己ノ威權

ノ下ニ在ル限ハ此者ノ不法行爲ニ付テモ此責ニ任セサルヘカラスト爲ス、誰モ之レ或ハ羅馬法ノ

舊卷ヲ墨守スルモノニシテ羅馬法ノ如ク家長ノ威權ノ下ニ從屬セル者ノ獨立ノ人格ヲ認メシテ家

長ノ人格中ニ埋没セラルセト認ムルニ於テハ又人ノ行為ニ付キ其責ニ任ト云フモ敢テ

怪ムニ足ラスト雖セズノ如キ立法主義ノ行ハレサル今日ノ法律上ニ於テ他人ノ行為ニ付キ當然其責

ニ任スト云フハ理論ニ過レタセフト云フヘカラス故ニ本來ハ多數ノ立法例ノ如木條ニ於テ前二

條ニ掲タル無能力者ヲ監督スヘキ法典義務者ハ其無能力者カ第三者ニ加ヘタル損害賠償セサルヘ

カラサルコトヲ認ムト雖ノ此責任ニ右法定義務者カ監督義務ヲ怠タルニ因リケン生ハヘモノニシテ

御ナ自己ノ故意又ハ過失ノ責ニ任スニ外ナラス從テ其義務ヲ怠ラシシコト證明スルトキハ賠償

ノ責ヲ免カルヘキモノト爲セリ加ム前二條ノ規定ニ依リ無能力者カ自ラ不法行爲ノ責ニ任スヘキト

キハ監督義務者ハ固ヨリ賠償ノ責任ヲ負ヘキ理由ナキニ因リ法定義務者カ

責任ヲ負フヘキ場合ヲ限定セリ

既成法典財產編第三百七十二條ハ監督者及ヒ其威權ノ下ニ在ル者ヲ列舉スル雖ニ煩雜ニシテ却ア脱

漏ノ處ナシトセサルニ因リ本來ハ寧ニ概括的通則ヲ掲タ本來第一項ニ於テハ父母後見人等ノ如キ

無能力者ヲ監督スヘキ法定義務者責任ヲ規定ハ第一項ニ於テ教師匠等ノ如キ法定義務者代ハ

リテ無能力者ヲ監督スヘキ法定義務者ト同一ノ責ニ任スヘキ通則ヲ掲ケ

タリ其他既成法典ハ佛國民法々系ノ立法例ニ倣ヒ同第三百七十二條ニ掲タル責任者ハ損害ノ所爲ヲ

#### 第七百十四條

(理由) 本條ハ既成法典財產編第三百七十二條ヲ修正セリ即チ既成法典ハ使用者及ヒ被用者ヲ列記ス  
ト雖ニ本來ハ前條ニ於ケル如ク概括的之ヲ指シテ次ハ既成法典ハ使用者ノ責任ヲ以テ單ニ被用者  
責任失當ニ存ヘルノト認ムルコトハ起算者説明ニ依リテ疑フ容レスト雖ニ使用者責任ハ亦

固ヨリ事業監督上ニ失當ニモ基タルノトレ本來ハ使用者損失ハ勿論事業ノ監督ニ付キ使用者一  
不注意ノ廉アルトキハ被用者ノ事業執行ルニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ニ對し使用者  
ソシテ其實ニ任せシメタリ然レト既用者右ノ縫合及ヒ監督ニ付キ相當ノ法意ヲ加ヘタルトキ又  
ハ之ヲ加フルモ損害ヲ生スヘカラシニ場合ニ於テモ尙且此者ヲシテ賠償ノ責ニ任せシムルハ立法上  
正當ノ理由ナキ所ニシテ既成法典ハ財產編第三百七十二條ニ掲タル責任者ニ對シ此者カ損害ヲ所爲

ヲ防止スル能ハサリレコトヲ證明スルトキハ其責ニ任セサル例外ヲ規定スルニ拘ハラス同第三百七  
十三條ニ於テ使用者ニ對レテハ之ト同様ノ例外ヲ設ケサルハ頗ル其當ヲ失ヘルモト云ハサズヘカ  
ラス故本來ハ前條ト同一ノ趣旨ニ本末本體併書規定ヲ設ケテ使用者ノ責任ヲ限定シ併セ事

業へ發達し多人數ヲ使用セサルヘカラサル事業ノ増加シタル合口ノ狀況ニ適セシメタルノミナラス既成法典ノ如ク被用者ノ不法行爲ハ使用者ノ職務ヲ行フ爲ニ又ハ之を行フニ際シテ生シタルモノト爲ストキノ廣キニ失ル處アルニ因リ本案ハ單ニ被用者ハ事業執行付キ第三者ニ加ヘタル損害ト改メタリ

其他本條第二項ハ前條第一項ト同一ノ趣旨ニ本ワクモニシケン本條第二項ハ使用者又ハ監督者カ被用者ニ對シテ賠償權ヲ行使シ得ヘキコトヲ認ムル至當ノ規定タレハ別ニ説明ヲ要セス

### 第七百十五條

(理由) 請負人カ注文・仕事ヲ爲スニ付キ第三者ニ損害ヲ加フルコトアルハ實際上屢見ル所ナリ雖モ注文者ト請負人ノ關係ハ前條三掲ケタル使用者ト被用者トノ關係ハ大其趣旨異ニシハズ文者ハ請負人ヲ選任シテ使用者スルニアラシテ請負人ハ獨立シテ一種職業ヲ營ム者タルノミナラス

注文者ハ其仕事ヲ監督スルモノニ非サレハ請負人ハ假令注文者・仕事ヲ付キ第二者ニ損害ヲ加フルモ注文者ハ其實ニ仕事キ理由ナシト然レトモ既ニ前條ノ明文アルトキハ注文者ト請負人トノ關係ナリトアリ之ヲ適用ヘキヨノナルカノ疑ツ生セシムルノミナラス注文者ノ仕事又ハ指圖ニ付キ過失アリタルトキハ請負人カ第三者ニ加ヘタル損害ニ付キ固ヨリ其責ニ任セサルヘカラサルモノトレハ此意旨ヲ明白ナラムムル爲メ本條ノ規定ヲ設ケタリ

### 第七百十六條

#### 第七百十七條

(理由) 本條ハ工作物ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於ケル賠償ノ責任者ヲ規定スルモノニシテ既成法典原編第二百五十五條ニ相當シ左ノ諸點ニ於テ之修正ヲ加ヘタリ

一既成法典ハ舊民法ニ系ニ屬スル諸國ノ法典ノ如ク工作物ノ所有者ヲ以テ賠償ノ責任者ト爲スト

雖モ本案ハ英國及ヒ獨逸ノ立法主義ニ倣ヒ通則トシテ工作物ノ占有者ヲ以テ其責任者ト定メ

タリ蓋シ工作物ノ所有者ト其占有者カ相異ナル場合ニ於ケル其工作物ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スルニ付キ直接ノ關係ナ有スル者ハ所有者ニ非ラシテ占有者アルハ勿論ニシテ既ニ賃貸借ニ付

き目的物修繕ノ所有者ノ負擔タルヨリ賃借人ハ其保存ニ注意セサルカラサルカ如ク占有者フシ

テ本條ノ責任ヲ負ヘムルハ此等ノ趣旨ニ對照スル固ヨリ至當ニシテ且フニ依リテ實際ノ便宣ニ過セシムルヨリ得モノト云フヘシ然レトモ占有者カ損害を蒙生スヘキ防止スルニ必要ナル注

意フ爲シタルニ拘ハラス尙ホ此者ヲシテ賠償責メ仕セシムルハ其理由ナキニ因リ此場合ニ於テハ

工作物ノ所有者ヲシテ其責ニ任セシムルヲ以テ至當トス之レ即チ本條但書規則ヲ設ケル所以ナリ

二既成法典ニ於テ建物其物ノ工作物ヲ稱スルハ一方ニ於テハ如何ナル工作物ヲ包含シテ廣キニ失

スル如ク又一方ニ於テハ土地ノ工作物ヲ含マシシテ致キニ失スル嫌子キ能ハサルニ因リ本案ハ本

條ノ場合ハ土地ニ附着スル工作物ニ限定ヘルヲ以テ至當トス之レ即チ本條但書規則ヲ設ケル所以ナリ

地ノ工作物以外物ニ因リテ生スル損害ニ付ケハ第七百八條通則ニ依リテ其責任ヲ定ムヘント

雖モ竹木ノ叢植又ハ栽培ニ環境アリテ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ如キ竹木ヘ土地ノ工作物ト稱

スルコトヲ得スト雖モ加害ノ状況ハ土地ノ工作物ニ因リテ生スル損害ト殆ント同一ナルニ因リ木  
案本條第二項ノ規定ヲ設ケ右ノ場合ニ於テハ第一項ノ規定ヲ適用スヘキモノト爲セリ  
三既成法典ハ財産編第三百七十五條第二項ニ於テ種々の場合ニ列記シ第一項ト同一ノ責任ヲ生  
スヘキ旨ヲ規定ステ雖モ右列記中ノ事項ニシテ寧ロ不执行寫ノ通則ニ從ハシムルヲ以テ至當ト爲  
スヘキモノアリ又其他ノ事項ハ本條第一項ノ規定中ニ包含セラルヘキニ因リ本來ハ總ニ之ヲ割除  
セリ  
四既成法典ハ單ニ工作物ノ築造ノ環境ニ因リテ損害ヲ生ヌタル場合ニ於テ之ヲ賠償シタル所有者カ  
工事を請負人ニ對シテ損害ヲ有スル旨ヲ規定スルニ止ミテ廣く他ニ損害ノ原因ニ付キ其責ニ仕  
ヘキ者アル場合ニ豫定セサルハ其缺點ト云ハサルカラサムニ因リ本來ハ本條第三項ノ規定ヲ設  
ケ損害ノ原因ニ付キ他ニ其責ニ任スヘキ者アルトキハ前二項ノ規定ニ依リ既成法典ハ賠償シタル所有者カ  
又所有者ハ此等對シ損害ヲ有スル旨ヲ明示セリ

### 第七百十七條

(理由) 本條ハ既成法典財產編第三百七十四條ニ於テ採用シタルト同一ノ主義ニ依リ動物ヲ保管ス  
ト雖モモ立法的顧慮ニ關する事項キシテ過失ヲ無ニ關セス動物所屬者又ハ占有者フシテ其動物カ他人  
ニ加ヘタル損害ヲ賠償セシムルモノアリ或ハ責任者ヲ豫定シ然モ此者過失ナキコトヲ證明スルト  
キハ其責ヲ免カレ得ヘント爲スモノアリ而レテ既成法典ハ賠償ノ責任者ヲ以テ所有者又ハ加害ヲ當  
セリ

第七百十八條

(理由) 本條ハ數人ノ共同ヲ一個ノ不法行為ヲ爲シ或ハ數人共力、不法行為ノ共ニ爲シタル場合ニ  
於ケル損害賠償ノ責任ニ規定スルモノニシテ既成法典財產編第三百七十九條ノ修正セリ即チ既成法  
典ハ連帶債務ニ代理關係ニ存スモノノモトシ從テ數人共謀シ不法行為ヲ爲シ非サレハ連帶ノ  
責任ヲ生スルコトナク其他ニ場合ニ於テハ各自ノ過失又ハ懈怠、部分ヲ知ルも能ハサセトキハ所謂全  
部義務ナフルセラフ認ムサルニミラス本條ノ場合ニ於ケル如ク數人ノ共同シテ一個ノ不法行為ヲ爲  
シ之ニ因リテ他人ノ損害ヲ加ヘタルトキハ之レヨリ生スル債務モ亦一ナルニ因リ共謀ニ有無フ間全  
部各自フレ連帶ニテ賠償ノ責任ヲ負シムルハ當ニシテ且便利ナリト認ム本條第一項前段ノ規定  
定ニ依リ總テ連帶ノ責任ヲ負ムモノト爲セリ而シテ數人共力ニ不法行為ヲ共ニシタルノミ

シテ共同ニテ一個ノ不法行爲ヲ爲シタルニ非スト雖モ共同行爲者中ノ何人カ損害ヲ加ヘタルカヲ知ルコト能ハサル場合ニ於テ被害者必シモ加害ノ本人ヲ證明シテ此者ノミカ真ニ損害ヲ加ヘタルニ止マム共同行爲者ハ幾分ニ其損害ヲ生ムサルヘカラストセハ其證明極メテ困難シテ被害者ハ往々賠償ヲ求ムルコト能ハサルノミナラス假令共同行爲者中或人ミカ真ニ損害ヲ加ヘタルニ止マム共同行爲者ハ幾分ニ其損害ヲ生ムルコト能ハサルノミナラス

不法行爲ヲ放棄シ又ハ之ヲ補助シタル者ハ刑事上ニ於テハ不法行爲ノ本人同ニノ責任ヲ負フコトナレト雖モ民事上ニ於テ共同行爲者トシテ總テ連帶ノ責任ヲ負ハシムヲ以至當ニ斯然レトモ此等ノ者ハ或ハ共同行爲者、認メ難キニヨリ本條ハ特ニ本條第二項ノ規定ヲ設ケ放棄者及ヒ補助者サルヘカラストシ實際ノ必要ヲ達セシメタリ

不法行爲ヲ放棄シ又ハ之ヲ補助シタル者ハ刑事上ニ於テハ不法行爲ノ本人同ニノ責任ヲ負フコトナレト雖モ民事上ニ於テ共同行爲者トシテ總テ連帶ノ責任ヲ負ハシムヲ以至當ニ斯然レトモ此等ノ者ハ或ハ共同行爲者ト見做スヘキ旨明ニセリ

### 第七百十九條

(理由) 本條ハ所謂正當防衛又ハ自助自衛ニ關スル規定ニシテ不法行爲 責任ハ行爲シタル者ノ

故意又ハ過失ニ存スル以テハ本條ノ場合ノ如キ他人ノ不法行爲ニ對シ自己又ハ第三者ノ権利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得シテ加害行爲ヲ爲シタル者ハ固ヨリ故意又ハ過失ナキ也ノナレハ其加害行

爲ニ付キ何人ニ對シテも責任ヲ負フヘキ理ナント雖モ右ノ加害行爲ヲ爲シタル者か自己ニ不法行爲

シタル者ニ對シテ損害賠償ヲ請求フ爲スコトヲ妨ケサル旨フ不セリ

本條第一項ノ場合ハ他人ノ不法行爲ニ因リテ或人カ加害行爲ヲ爲シタルニ非スト雖モ他人ノ人物ヨリ生シタル急迫ノ危難ヲ避ケシム爲ニ加害行爲ヲ爲スニ至リタルモノニレテ其状況毫モ第一項ノ場合ト異ナル所ナキニヨリ此場合ニ於テハ第一項ノ規定ヲ準用スルセトトキト爲セリ

### 第七百二十條

(理由) 本條ハ既ニ私權專有ノ通則タル第一條ノ規定ヲ設ク三當リ既成法典事體第一條ノ如ク胎兒ノ利益トナルニキ場合ニ於テハ總テ之ヲ既生兒ト同觀スル概念的規定ニ往々意外ノ結果ヲ生ム

シムル處アアルニヨリ斯ハキ通則ハ特ニ之ヲ掲ケシテ胎兒ノ利益ヲ保護スル必要アリトキハ各共利益ヲ失フヘキ極メテ大ニシテ法律ハ固ヨリ之ヲ保護サルヘカラスニ因リ本條ハ多數ノ立法例ニ依ニ殊第一條、續冒ニ本條ノ明文ヲ掲ケタリ

## 第七百二十一條

十六

(理由) 不法行爲ニ因ル損害ト債務不履行ニ因ル損害トハ其性質ヲ異ニスト離モ之ヲ賠償セシムルニ付キ別段ニ意思表示キ限ハ金錢ヲ以テ其額ヲ定メシムルハ便宜至リテハ最ア異ナル所ナキヲ以テ本條第一項ハ不法行爲ニ因ル損害ヲ賠償ニ付テハ債務不履行ニ因ル損害ノ賠償ニ關スル第四百六十條規定准用スルモノト爲セリ

次ニ不法行爲ニ因リテ損害ヲ受ケタル者カ自己ニ過失アリタトキハ恰モ債務不履行ニ付キ債權者ニ過失アリタトキノ如ク損害賠償ノ額ヲ定ムルニ付テ裁判所ガシテ被害者ノ過失ヲ斟酌スルコトヨリ得セシムルハ不法行爲ニ場合ニ於テ一層至當ノ理由アリトス然レントモ既ニ第七百八條ノ通則アリ以上ハ假令被害者ニ過失アルモ加害者ラシテ損害ノ全部ヲ賠償セニメサルヘカラサルカノ疑フ生ヒシムル因リ特ニ本條第二項ノ明文ヲ掲ゲタリ而シテ本項場合ニ於テ債務不履行ニ關スル第4百七十條規定准用スルコトヲ得サル所以ハ債務ノ不履行間接債權者ニ過失アリトキハ之ヲ因リ裁判所ガシテ損害賠償ノ責任ノ有無ヲ斟酌スル雖モ不法行爲ニ場合ニ於テハ苟モ加害者ニ不法行爲ノ存ム限ノ損害賠償ノ責任ノ有無ヲ問フニ及ハサレハナリ

## 第七百二十二條

(理由) 本案ハ既ニ不法行爲ニ範圍ヲ擴張シテ財產以外ノ損害ニ付テ其賠償ヲ求メ得ヘキコトヲ認ムル因リ名譽ヲ毀損セラレタル者ト雖セ亦固ヨリ之ニ對スル賠償ヲ請求スルコトヲ得ヘシト雖ニ名譽ノ毀損ハ其性質上必スルヤ金錢其他ノ物品ヲ以テ賠償スルコトヲ得ヘキモノニアラス被害者ハ寧ロ共同復ヲ希望スルモシシテ固ヨリ至當ニ事タレハ假令巨額ノ賠償ヲ以テスルモ被害者ヲシテ強ヒテ之ヲ以テ満足セシムル法律上名譽ノ保護スル點ニ於テ完全ナリト云フカラヌ故ニ本案ハ名譽ニ對スル不法行爲ニ付キ特ニ本條ノ規定ヲ設ケ裁判所ハ被害者ノ請求ニ因リ加害者ニ對シ損害賠償一代ハテ名譽ヲ回復スルニ適當ナル處分例ヘハ謝罪ノ意ヲ廣告セシモ或ハ法庭ニ謝罪セシムケ如ギ處分ヲ命スルコトヲ得又其損害賠償ト共ニ此等ニ處分ヲ命スルコトヲ得ト爲セリ

## 第七百二十三條

(理由) 本條ハ不法行爲ニ因ル損害賠償ニ請求權ニ關スル特別時效ヲ規定スルモノニシテ此時效ニ付テハ既成法典財產編第三百七十九條ノ刑訴訴訟法ノ規定ヲ適用スルモノトシ諸國ノ立法例ニ顧ムニ區々ナリ雖モ本案ハ相當ト認ムル所ニ依リテ被害者又ハ法定代理人ニカ損害及ヒ加害者ヲ知リタル時ヨリ二年間右ノ請求權ヲ行ハサルトハ其權利ヲ失フモノトシ又如何ナル場合ニ於テモ不法行爲ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキハ賠償ヲ請求スルコトヲ得サルモノト爲セリ